

サトイモ疫病の被害を防ぐために ～病原菌の特徴をとらえて効果的な対策を提案～

健全なサトイモ畑

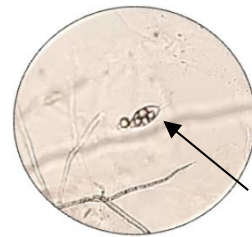


発病した畑



サトイモ疫病とは

- 病原菌：フィトフトラ・コロカシエ（カビに似た微生物）
- 生育適温：27～30℃
- 雨により急速に広がる
- 急速に病斑拡大 → **葉がなくなって収量減！**
- 県内では平成29年以降に被害の報告が急増

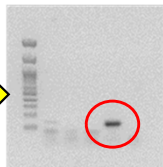


サトイモ疫病菌の顕微鏡写真（遊走子のう）

1. 病原菌はどこからくるのか？ → 種芋、野良生えが伝染源となる可能性



種芋



種芋から
PCR検査で
疫病菌を検出



野良生え
(畑の外に捨てら
れた芋の葉)
に疫病発生

対策

- ・発病圃場の芋を種芋として使わない
- ・野良生えの除去

2. いつから病気が発生するのか？ <初発生条件> ⇒ 防除開始適期の判断に利用

<県内の初発生確認日>

6月20日～7月22日（H30～R3年）

日平均気温
25℃以上



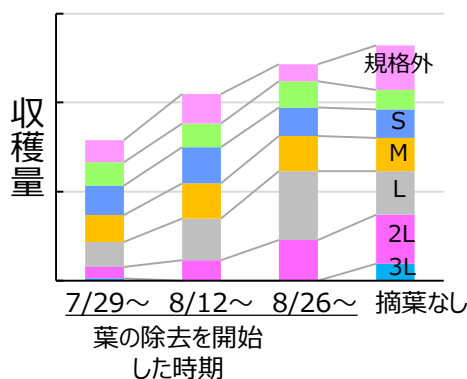
+

まとまった雨 または
少量でも数日に渡る降雨後



3. いつまで発病を抑える必要があるか？

9月中旬収穫の「石川早生(品種名)」は
8月下旬頃まで発病を抑えると**収量を確保**
できる



疫病による被害を
再現するため、
時期別に葉を
除去し収量調査

↓
8月下旬以降は
葉を除去しても
減収なし

4. 効果的な対策は？

- ・初発生確認後、**数日以内**の農薬散布が有効
- ・その後も10～14日おきに**散布**が必要

<散布作業の労力削減>

省力的なドローン散布、粒剤の効果検証

